“経営に知恵と革新”

令和５年３月１日発行（隔月発行）Vol.769 号

マネジメント コンサルタント

Management Consultant

2023年３月・４月号

宮島の春（広島県）

認定経営革新等支援機関
一般社団法人日本経営士会

第55回経営士全国研究会議　広島大会

包括テーマ

理論と実践の融合

―強い日本を創る―

日程：2023年 10/14(土)・15日(日)

会場：広島国際会議場(広島市)

1日目：10/14(土)

12:00～	開会式
12:20～13:20	特別講演：持続可能な開発目標 ―経営は勝つことではなく負けないこと― 法政大学大学院　政策創造研究科　井上善海教授
13:30～	・ビジネス・イノベーション・アワード企業発表・表彰式 ・経営士会活動報告 ・経営士論文発表・表彰式
18:00～	懇親会（於：ANAクラウンプラザホテル広島）

2日目：10/15(日)

9:00～12:00	経営士への提言／新しい時代への挑戦 基調講演・パネルディスカッション ゲスト：小林史明衆議院議員
13:00～13:30	特別講演：人間の適応力から未来を見る 広島大学病院副病院長　感染症科　大毛宏喜教授
13:40～15:00	特別講演：100円の積み重ねのビジネスの強さとは 株式会社大創産業会長　矢野博丈様
15:00～15:30	座談会
15:30～	閉会式

※詳細につきましては逐次本会ホームページ、会報誌等でお知らせいたします。

INDEX

理事会通信 ・・・・・・・・・2
資格に関する規程　改定 ・・・・・・・・・4
第12回 ビジネス・イノベーション・アワード2023　募集のご案内 ・・・・・・・・・8
全国研広島大会にて会員発表、フォトコンテスト開催 ・・・・・・・・・9
事業部・委員会活動
　倫理委員会からの報告 ・・・・・・・・・10
　資格審査委員会からの報告 ・・・・・・・・・11
　経営支援事業部　2022年度開催 第2回 経営支援アドバイザー養成講座 総評報告 ・・・・・・・・・12
　MPP委員会活動報告 ・・・・・・・・・14
　「リアル★クロッシング in 東京」を開催しました ・・・・・・・・・17
　SMC 7c『収益事業化プロジェクト』活動報告 ・・・・・・・・・19
　来期から一般対象に「SDGs経営士」養成講座を開始 ・・・・・・・・・20
支部活動報告
　北海道支部　支部活動報告 ・・・・・・・・・21
　東北支部　MPP開催 ・・・・・・・・・22
　北関東支部　新潟県会　第35、36、37回公開 MPP ・・・・・・・・・23
　北関東支部　茨城県会　2022年最後の県会例会を開催 ・・・・・・・・・26
　北関東支部　栃木県会　MPP　開催結果 ・・・・・・・・・27
　千葉支部　支部活動報告 ・・・・・・・・・28
　東京支部　「2023年新春セミナー By Zoom オンライン」報告 ・・・・・・・・・29
　南関東支部　【神奈川ビジネスオーディション2023への協賛活動】 ・・・・・・・・・31
　中部支部　最近の活動報告 ・・・・・・・・・33
　中国支部　第55回　経営士全国研究会議　心こめて順調に準備中です！ ・・・・・・・・・35
　四国支部　支部活動報告 ・・・・・・・・・36
インフォメーション ・・・・・・・・・37

マネジメントコンサルタント（Management Consultant）
発行所：一般社団法人日本経営士会

〒102-0084　東京都千代田区二番町12-12 B.D.A. 二番町ビル5F
Tel：03-3239-0691　Fax：03-3239-1831
https://nihonkeieishikai.com

表紙：宮島の春（広島県）

理事会通信

＜令和４年度第９回定例理事会（抜粋）＞

記

１．日　時：令和4年12月16日（金）　13：00～14：30

２．会　場：本部会議室、ZOOMによるオンライン配信

①資格審査に関わる説明会資料（案）

児玉理事から資格審査をするための提出書類が不統一のため、審査に支障を起きているので来年1月15日改めて資格審査に関わる説明会を開催する旨の提案があった。審議の結果全会一致を以って承認された。

②入会に関する配賦金額について

近藤専務理事より経営士補が経営士に昇格したとき、推薦者と所属支部が異なる場合は支部に15,000円、推薦者に10,000円の配賦金に設定する旨の提案があり、審議の結果、全会一致を以って承認された。

③理事会運営規程について

近藤専務理事が資料に基づき報告。理事会運営のための諸規定の確認があった。また、理事会議事録については事務局が作成し、専務理事が審査し会長・副会長・監事が承認を行う。その後、全役員に送付することが全会一致で承認された。

④中間監査後の支部調査結果について

近藤専務理事からほぼ全支部から副支部長、会計担当の名簿、支部独自を規程類等が提出された旨の報告があった。支部役員の手当等は支部幹事会ではなく、支部総会にて決議されるべきとの意見があり、今後も詳細な調査を継続することとなった。

⑤１．経営士養成講座特別価格適用（案）について

２．SDGs経営士養成講座　一般募集価格について

３．経営士養成講座　受講者紹介料設定（案）について

近藤専務理事が資料に沿って説明した。

1. 「経営士養成講座」を準会員が受講するにあたり正会員への移行促進のため割引制度を設けたい旨の提案があり、審議の結果、受講費30％引きの税込み154,000円にすることが全会一致を以って承認された。
2. SDGs経営士養成講座の一般対象受講料は経営士補養成講座と同等の日程で実施するので税込み受講料77,000円とすることが全会一致で承認された。
3. 経営士養成講座受講者を紹介していただいた会員に対し1名に付き30,000円の謝礼を支給する旨の提案があり、審議の結果全会一致で承認された。尚、謝礼金は養成講座の受講料を原資にすることも承認された。

⑥全国研参加費について

豊政理事より経営士全国研究会議の会員参加料を諸経費値上げの為15％値上げしたい旨の提案があった。詳細は理事支部長にて中国支部小原支部から説明を聞くこととなった。尚、児玉理事より議案に上がったものには必ず資料を付け、その証拠を残すべきとの意見が出た。

以　上

＜令和４年度第10回定例理事会（抜粋）＞

記

１．日　時：令和5年1月20日（金）　13：30～17：10

２．会　場：本部会議室、ZOOMによるオンライン配信

鈴木会長より本会顧問弁護士に就任した石田太郎会員（経営士）の紹介が有り、ご挨拶と共に本会商標登録済み「経営士」称号を無断使用している法人の対応についての見解があり、差し止め請求はできるが、使用禁止にするのは大変難しい旨の説明があった。また、同法人は日本で一番古いコンサル団体ともアピールしている。この件も、法的に抑えることは難しい。以上から、当会としてはHPや日々の活動で「経営士」及び「日本で最初のコンサルタント団体」をアピールして行くことがベターとなった。

①個人情報保護規程関連について

矢島倫理委員長（オブザーバー）より資料に沿って、改定箇所、規程違反に対する対応事項の試案等の説明があり、また今後は近藤専務理事をプロジェクトリーダーにして年度末までに改定案を整え、選挙規程（本部役員候補者選出手続規程）にも関係してくるので選挙管理委員会と連携をしていく旨の発言があった。審議の結果、今後も倫理委員会に引き続き規程改定を依頼していくことが全会一致を以って承認された。

②第55回全国研予算案について

豊政理事より全国研究会議参加費を諸物価高騰のため第55回広島大会から3,000円値上げの23,000円とする申請、また第55回全国研究会議広島大会の収支予算書の説明があり、審議の結果全会一致を以って承認された。

③資格審査基準について

児玉理事が資料に沿って1月15日開催の「資格審査に関わる説明会」での意見を踏まえ経営士（補）養成講座に関しての改訂点の説明をした。改訂のポイントとして①学識審査は従来通り。②経営管理実績の項目を無くし、社会人経験とする。（経営士5年、経営士補3年）③受講者の面接は不要の3項目であったが、審議の結果、③については「オンラインの受講のみの場合は主催者である塾長又は配属先の支部長等の面接（面接結果報告書提出）を必要とする」に変更することを条件に全会一致を以って承認された。また、入会者が所属する支部の支部長などは、入会者の入会後の活動がスムースに行くよう面会（オンラインでも可）を行うこととなった。

④「資格に関する規程」改定について

近藤専務理事が資料に沿って新設の「SDGs経営士」に関する条文を加えた規程の説明をした。審議の結果、第5条1項（2）に「④リアル講座がない養成講座の場合は、塾長面接による面接結果」の条文を加えることを条件に全会一致を以って承認された。

⑤CSR環境経営士養成講座受講料変更について

三品理事より環境経営士養成講座関連等の受講価格改定の提案があり審議の結果資料金額設定のとおりで全会一致を以って承認された。

※第75回3月より「CSR環境経営士養成講座」

ベーシックコース　15,000円、アドバンストコース　30,000円、両方受講　42,000円

以　上

資格に関する規程　改定

「SDGs経営士」の新設にあたり、資格に関する規程の改定が理事にて決議されましたので、皆様にお知らせいたします。

資格に関する規程

（目　的）

第１条　本規程は、本会が付与する資格に関して必要な事項を定める。

（資格の種類）

第２条　資格の種類及び会員区分は、下記の通りとする。

会員区分	付与資格	資格の定義
正会員	経営士	経営士とは、本会が実施する試験又は審査に合格し、本会の正会員として入会した者で、経営管理に関する高度な専門知識を駆使して経営の効率化、業績向上、企業文化の創造・成熟化などに貢献できるスペシャリストのことを言う。
準会員	経営士補	経営士補とは、本会が実施する試験又は審査に合格し、本会の準会員として入会した者で、経営士の補佐に相応しい専門知識を有するとともに、「経営士」を目指して、さらに高度な経営管理に関する専門知識の習得に努めている者を言う。
	環境経営士	環境経営士とは、本会が実施する試験又は審査に合格し、本会の準会員として入会した者で、企業・団体における環境経営及び環境保全活動に対し、適切な助言及び支援のできるスペシャリストのことを言う。
	SDGs 経営士	SDGs経営士とは、本会が実施する試験又は審査に合格し、本会の準会員として入会したもので企業・団体におけるSDGs関連活動に対し、適切な助言及び支援のできるスペシャリストのことを言う。
	准経営士補	産業能率大学の通学4年制の経営学部、情報マネジメント学部の者で、所要科目の単位を取得しており、担当教員の推薦状のある、卒業間近で卒業要件を満たしている者か、卒業後、社会経験3年未満の者を言う。

（有効期間）

第３条　資格の有効期間は下記のとおりとする。

「経営士」、「経営士補」、「環境経営士」「SDGs経営士」「准経営士補」の有効期間は、会員資格の喪失までとする。

但し、「環境経営士」については、2年に1回以上、本会が行う「環境経営士フォローアップ講座」等を受講しなければならない。「SDGs経営士」についても、2年に1回以上、本会が行う「SDGs経営士フォローアップ研修」等を受講しなければならない。

（試験の受験資格および養成講座の受講要件）

第４条　試験の受験資格および養成講座の受講要件は下記のとおりとする。

1　「経営士」

(1)　「経営士」の受験資格および養成講座の受講要件

①　大卒以上の学識を有すること。

大卒でない場合は、社会での学習実績等で学識を判断する。

②　社会人経験が、経営士の場合5年以上有する者。

③　法律に違反して処分を受け2年を経過しないなど、本会により不適と判断された者でないこと。

(2)　「経営士」の試験

①　経営士試験は、筆記試験、面接試験、経歴審査の3種類により行う。

②　試験は、原則として5月及び11月に行う。

2　「経営士補」

(1)　「経営士補」の受験資格

①　大学卒業程度以上の学識と経営管理3年程度以上を有する者。

ただし、大学卒業以上の学識を保有しているかどうかは、社会での学習実績や取得資格を加味して判断する。

②　法律に違反して処分を受け2年を経過しないなど、本会により不適と判断された者でないこと。

(2)　「経営士補」の試験

①　経営士補試験は、筆記試験、面接試験、経歴審査の3種類により行う。

②　試験は、原則として5月及び11月に行う。

3　「環境経営士」資格取得申請の要件

(1)　「環境経営士」の資格付与を受けようとする者は、次のいずれかの要件を満たしていなければならない。

①　本会が行う「環境経営士養成講座(ベーシックコース及びアドバンストコース)」の修了者であること。

②　環境マネジメントシステムの審査員及び本会が認める環境関連の資格保持者については、アドバンストコースの修了者であること。

4　「SDGs経営士」資格取得申請の要件

(1)　「SDGs経営士」の資格付与を受けようとする者は、次の要件を満たしていなければならない。

①　本会が行う「SDGs養成講座」の修了者であること。

5　「准経営士補」資格取得申請の要件と特例

(1)　「准経営士補」の資格審査及び資格付与においては、産業能率大学の通学4年制の経営学部、情報マネジメント学部の者で、卒業間近で卒業要件を満たしている者か、卒業後、社会経験3年未満の者であり、さらに以下の①～③の条件のすべてを満たしている者であることが前提条件になる。

そのうえで、理事会の承認を得て資格の付与を行う。

①　卒業要件の充足または卒業証明書があること。

②　それぞれの学部で、以下の科目のうち1科目を単位取得していること。

ただし、今後、科目名が変更になる場合は、類似科目とする。

1)　経営学部の者

「中小企業の経営を考える」「ビジネス倫理」「中小企業のための予防法務」

2)　情報マネジメント学部の者

「ビジネスの法務」「マネジメント思想と技法」「経営分析」

③　担当教授または学部長からの推薦状があること。

「資格審査委員会」は、これらの条件についての申請内容および、“資格審査にかかわる面接実施要領”に定められた、別表1：面接結果表について確認する。

(2)　「准経営士補」については、以下の特例を設ける。

「准経営士補」取得の産業能率大学の卒業生が実務経験を3年積んだ後、本人からの申請があれば、経営士補の筆記試験を免除する。

（資格審査と付与）

第５条　資格の審査及び付与は次により行う。

1　「経営士」及び「経営士補」の資格審査及び付与は、「資格審査委員会」が、以下の審査を行い、理事会の承認を得て資格の付与を行う。

(1)　試験入会の場合

受験資格と試験結果および支部での面接結果

(2)　各養成講座での修了入会の場合

①　大卒以上の学識を有すること。

ただし、大卒でない場合は、社会での学習実績等で学識を判断する。

②　社会人経験が、経営士の場合5年以上、経営士補の場合3年以上。

③　各養成講座の塾長が定める修了試験の合否による修了審査結果

(3)　推薦入会の場合

経営士(補)推薦入会規程に定める推薦の適格要件および支部での面接結果

2　「環境経営士」の資格審査及び付与は、「資格審査委員会」が申請内容を審査し、理事会の承認を得て資格の付与を行う。

3　「SDGs経営士」の資格

「SDGs経営士」の資格審査及び資格付与は、「資格審査委員会」が申請内容を審査し、理事会の承認を得て資格の付与を行う。

4　「准経営士補」の資格審査及び資格付与は、「資格審査委員会」が申請内容を審査し、理事会の承認を得て資格の付与を行う。

（経営士補の経営士への昇格）

第６条　経営士補の経営士への昇格は次により行う。

1　経営士推薦入会規程の推薦入会基準を満たす経営士補で、経営士への昇格を目指す者は、この規程に基づく推薦入会基準を満たすことを示す書面をもとに、支部長等の推薦人に対して経営士への昇格申請を行うことができる。

2　経営士推薦入会規程の推薦入会基準を満たしていない経営士補で、経営士への昇格を目指す者は、別途定める研修等の受講時間数30時間以上（実務研修を含む）を示す様式をもとに、支部長等の推薦人に対して経営士への昇格申請を行うことができる。

3　推薦人は、被推薦人からの昇格申請の内容を確認したうえで、昇格申請に基づいて昇格推薦書を作成し、昇格申請の書類とともに本部事務局に提出する。

資格審査委員会の審議と、理事会の承認を経て、被推薦人は経営士に昇格することができる。

（推薦による「経営士」「経営士補」の資格付与と入会）

第７条　下記の規程により、「経営士」と「経営士補」について、推薦により入会することが出来る。

1　経営士推薦入会規程

2　産業能率大学通信教育課程の卒業者向け経営士補推薦入会規程

3　経営士補推薦入会規程

（改定と改訂）

第８条　この規程は、必要と認めたときに理事会の決議により改定または改訂をすることができる。

以　上

第12回 ビジネス・イノベーション・アワード2023　募集のご案内

ビジネス・イノベーション・アワードは、**本会経営士の指導のもと**経営革新やSDGs等社会貢献等で顕著な成果をあげた経営者、社会支援者、企業、団体等を表彰して、企業と地域社会の活性化を支援する目的で創設した事業です。「第12回ビジネス・イノベーション・アワード2023」を下記の要領にて募集します。自薦・他薦いずれの応募も歓迎します。

＜応募・選考スケジュール＞

☆応募受付期間：2023年4月10日　～　6月30日

☆選考審査：7月13日（木）※予定

☆選考結果発表：7月下旬ごろ

☆表彰式：10月14日（土）（第55回経営士全国研究会議）

＜募集（表彰）の対象範囲＞

＊経営革新、SDGs等社会貢献、地域活性化等で顕著な成果をあげた個人、企業･団体を対象とします。

◆経営改善や経営革新に取り組み経営の立て直し又は成長を実現した

◆多様性を持って企業経営や地域社会に貢献した

◆独自の人材教育や人的資源を活用して成果につなげた

◆多様な働き方に配慮したダイバーシティーマネジメントやワークライフバランスを重視した経営に取り組み成果につなげた

◆ビジネスの創造により独特の分野で起業して成果につなげた

◆医療・福祉及び農業分野で顕著な成果をあげた

◆環境保護や少子高齢化対応等で地域社会に貢献した

◆上記に準じた取り組みや活動成果を対象とします。

＜選考審査の視点＞

上記の表彰範囲を満たすもので、「理念・手法・ビジネスモデルの創造」などが優れたものであるか、また、過去に「賞」や「社会的な評価」を受けた企業等が引き続き、革新に挑戦しているかなど、経営コンサルタント（経営士）の視点で選考します。

＜応募対象＞

☆応募は、個人及び中小規模の企業、団体等とし、自薦・他薦を問いません。

＜選考方法＞　選考委員会において選考します。

＜表彰の種類＞　＊会長賞（表彰状、トロフィー）1組、＊優秀賞（表彰状、トロフィー）数組

＜応募方法＞

所定の応募･申請用紙に必要事項を記載のうえ、会社案内又は活動案内等を添えて2023年4月10日から6月30日までの間にメール送信又は下記あてにご郵送ください。

応募･申請用紙は、一般社団法人日本経営士会ホームページ（https://nihonkeieishikai.com）からダウンロードしてお使いください。

第55回　経営士全国研究会議のご案内

全国研広島大会にて会員発表、フォトコンテスト開催
～みなさんの活動を10分でシェアしてください～

会　員　発　表

広島で行います全国研究会議は、参加するだけではなく、自ら情報を発信する場としていただけるように準備を進めております。

一日目の後半に会員の活動や研究の発表会を予定しています。

つきましては、日頃から積極的な活動をされている方に発表者としてご参加いただきますようお願いいたします。

自らの情報公開することで仲間を増やし、連携し、相乗効果でさらなる活動につながることを願っております。多くの方に発信いただきたいので、お一人の発表の時間は10分です。（発表後に質疑応答3分設けています）　短い時間ですが、あなたの活動をぜひ教えてください！！！

①会員発表の申し込み

日本経営士会中国支部のホームページ内「全国研究会議広島大会」から専用ページを開き、会員発表申込書に会員番号、氏名、メールアドレス、演題、内容をご記入ください。（第一次締め切り4月30日・枠が埋まり次第締め切ります）内容は、本会で審査し、発表をお願いする場合には、随時連絡いたします。

②演題発表は10分【時間厳守】

発表後に質疑応答3分、紹介と入れ替わりに2分の予定です。

ご発表は、フリートーキングではなく、必ず文字おこししていただき、口頭で10分以内であることを事前にご確認ください。

フォトコンテスト　テーマ：『働く姿は美しい』

コロナとの共存が出来るように昨今では、活発な活動が再開し始めました。仲間と共に活動できる場の一つに働く場所があります。人生の1/3は社会とのつながりの生活です。働く喜びは、人生の喜びでもあります。今回の全国研では輝いて働いている姿を共有し、その喜びをともに分かち合うため、フォトコンテストを開催します。明日への希望へと結び付けましょう。

①応募条件

★応募者が被写体であり、働いている姿が映っていること。受賞の対象となるのは応募者のみとなります。＜被写体は複数人可＞

★応募は未発表作品に限ります。すでに発表したもの、「フォトコンテスト」前に発表予定のあるものについては選考外とします。

★応募作品はお一人に付き1点で、デジタル写真で応募できます。（1枚5MB程度でお送りください）

②各　　賞

★最優秀賞（1名）、優秀賞（1名）、★大会賞（1名）、特別賞（4名）

③受賞者発表（授賞式）

当会のHP等で入賞7作品を公開予定。授賞式は全国研広島大会初日10月14日（土）に行います。

※いずれの詳細も右記QRコード、もしくは、URLよりご確認ください。

URL : https://chugokukeiei.com/

事業部・委員会活動

倫理委員会からの報告（1）

倫理委員会

倫理委員長　矢島 隆志

経営士の倫理

「倫理」というとむずかしく感じることがあるかもしれませんが、これは社会的に守らなければならないことを意味しています。

抽象的で、絶対的な意味合いから敬遠されがちですが、社会の中で存在していく上では欠かせないものです。

経営士の業務は顧客先との信頼関係で成立しています。信頼関係は実績、実力、人柄など様々ですが、その根底には経営士の倫理性の高さが大きく影響しています。

倫理は道徳に近い概念ですが、個人的なものではなく社会的に幅広く求められるもので、本会においても重要とされる機能であります。

経営士の倫理というのは、経営士として社会的に活動するときに規範として持つべき、または守るべきものを指しています。

経営士として倫理が重要とされるもう一つの面は、その資格の保持に倫理という考え方が必要だからです。

経営士という資格は、弁護士、公認会計士、税理士、中小企業診断士と異なり、法律によってその資格が保証されているものではありません。名称独占、業務独占がありませんが、商標登録されている社会的に存在価値を有している資格であります。

この資格を維持するのは日本経営士会の私たち自身です。そのために経営士会に所属する一人一人の高い倫理性が重要となります。

それではどのようにして経営士の倫理性を高め、経営士としての高い倫理性を保持することが出来るのでしょうか。

毎年配布される経営士会の手帳には「倫理規程」が印刷されて挟み込まれています。この倫理規程には、経営士会に所属する者としての遵守事項があり、その中には業務や個人の行為としての禁止事項があります。

倫理委員会は重大な倫理違反が生じた場合、倫理審査会を臨時に開いて、違反事実の確認、違反会員からの聞き取り、違反の場合はその処分の決定を行います。

また倫理違反が生じないように会員への広報・周知、違反が生じた場合の原因追及とその対策と、幅広い活動を行います。

社会の中で、高い倫理性を持ちながら経営士として活動をしていくために、倫理全体についての理解を深めることが大切です。そのために倫理委員会では倫理違反の事前予防から事案発生にともなう事後対応までの幅広いテーマで、各委員による考えをこれから本誌上に連載していきます。

事業部・委員会活動

資格審査委員会からの報告

資格審査委員会

1月15日に今年度2回目の「入会審査に関わる説明会」を開催いたしました。
支部から35名の参加をいただき皆様の関心の高さを感じました。
ご参加いただきました皆様ありがとうございました。
今回の説明会の録画は、以下のYouTubeにて限定公開中です。

説明会の説明内容の限定公開：　https://youtu.be/HLf7uLZOc2Y

説明会での「意見書」については、質問者に直接回答させていただいています。
なお、今回寄せられた意見書をもとに「養成講座受講者の入会要件の見直し」と「推薦入会の推薦書の整備」が1月20日の理事会で以下の通り承認されましたのでお知らせします。

【理事会での承認事項】

1「養成講座の受講前審査と受講後面接の見直し」

（1）受講前審査では、「経営管理年数」を廃止して、「社会人経験年数」に変更しました。
これは、特に経営士補養成講座で若い方の受講を促すためです。

（2）養成講座の中でリアル参加の講座があれば、面接は不要となりました。
ただし、リアル講座がない養成講座の受講者の場合には、塾長がZoom面接を実施し、受講入会に伴う面接結果表の作成が必要です。この場合、今後の支部活動のため、配属予定先の支部長等とのZoom顔合わせは必須としています。

2「推薦入会の推薦書の書式の変更と提出者の明確化」

推薦書の書式が変更され、記入方法の整備に伴い正推薦人のみの提出となりました。
（新書式は、説明会資料からコピーするか本部事務局より取り寄せてください。）
（注）面接は従来どおり正副2名で行い面接の上、2名分の面接結果表を提出ください。
また、入会要件である“2つの必須要件と1つの適格要件”の確認も従来どおりです。

3 令和5年1月20日の理事会承認の入会者

推薦入会1名　経営士補受講後入会3名様が無事に理事会にて入会承認頂きました。

【今後の予定】

・令和5年5月　南関東支部主管　第58期　経営士養成講座　開講予定
・推薦入会・経営士への昇格審査は毎月受付中
説明会資料で確認の上、資格審査委員会開催1週前に書式を本部に提出してください。

＊2月以降の資格審査委員会の開催予定

2/10（金）20：00～22：00　　3/9（木）20：00～22：00
4/15（土）10：00～12：00　　5/19（金）20：00～22：00

各支部に支部担当の資格審査委員がいますので、不明点などがありましたら、まずはその支部担当の委員にご相談ください。委員名の一覧と連絡先等は説明会資料をご覧ください。
その他、資料請求・お問い合わせは、bzu03624@nifty.com 島影まで、メール問い合わせには、本部の田中さん　tanaka@nihonkeieishikai.com　をCCでつけてください。

事業部・委員会活動

2022年度開催 第2回 経営支援アドバイザー養成講座 総評報告

経営支援事業部

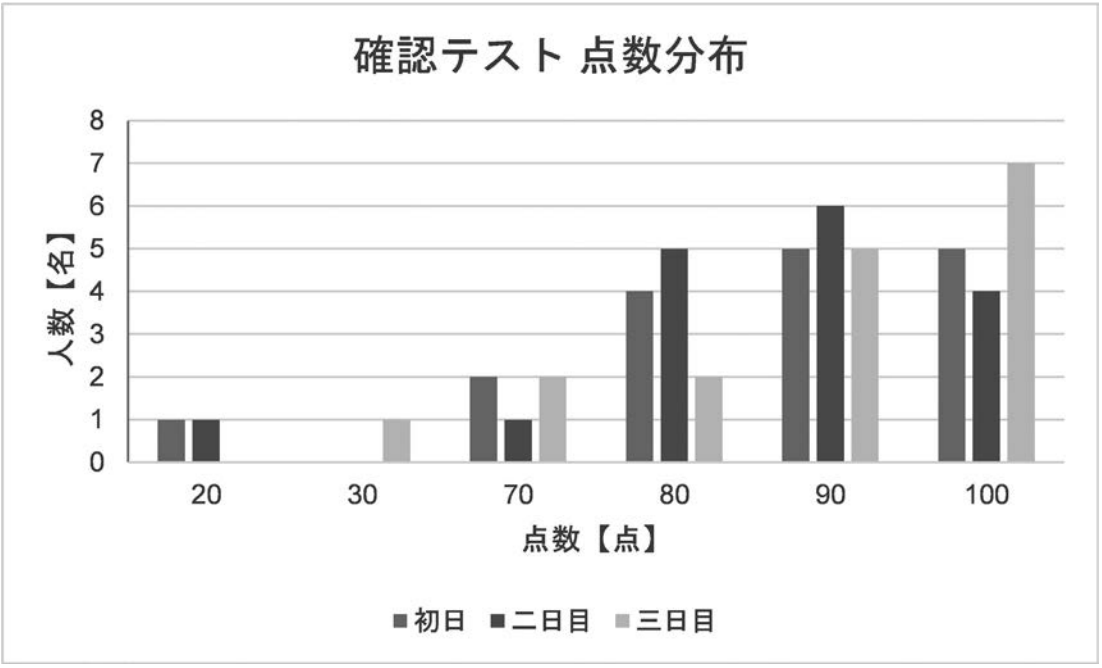
2022年12月10～11,17日の3日間に渡り開催された、経営支援事業部主催【経営支援アドバイザー養成講座】に関して、LIVE／ビデオ講座共に全過程を無事終える事が出来ましたので、アンケート結果を含む総評をご報告致します。

－受講者／合格者数－

新規受講者数：7名（内、ビデオ受講者：4名）　合格者数：7名

リカレント受講者数：12名（内、ビデオ受講者：7名）　合格者数：9名

合格基準（各日実施テスト：70点以上、アンケート3日分提出）



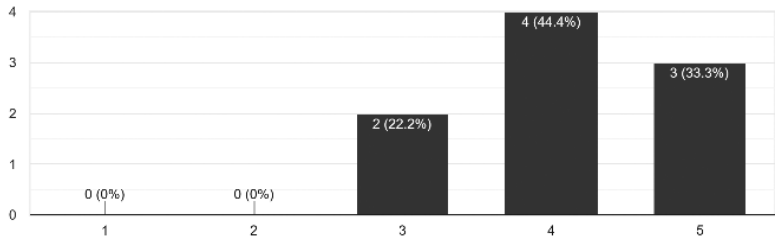
テスト未提出及びアンケート未回答の「修了要件を満たしていない」受講生を除く全員が、無事にアドバイザー認定・更新されました。

不合格ライン（20～30点）に関しては、テスト前に回答方法の事前講習をしたにも関わらず、webテストの回答方法を理解されていない／操作が分からない受講生の点数であり、他の受講生が全員合格をしている点を見ても、テスト難易度は適正なものであったと考察致します。

合格者のアンケート内容において、LIVE／ビデオ受講共に「講座内容が自身の業務に役立つ」や「頻繁に変更される制度の復習として、定期的に開催を希望する」等の本養成講座の有用性を高く評価するアンケート結果が多数であった為、講師/受講生共に意義のある講座となったのではと考えます。

一方で前回同様、zoom等のビデオ会議システムの操作方法やwebテストの操作方法等、昨今の情報社会で必須である最低限のITスキルが身に付いていない受講生が見られた点から別途、最低限のITスキル習得を目指す講座等を開催し、経営士会全体のITスキルを高める事も今後の課題となるかと見ています。

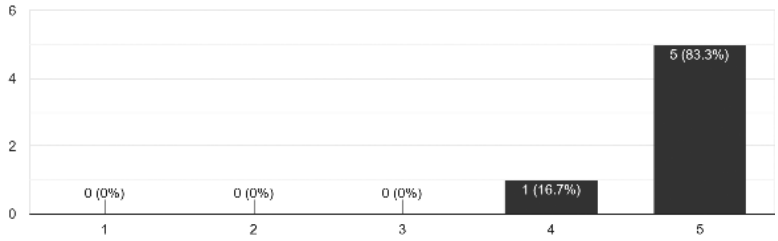
①本セミナーの内容は、今後あなたが経営支援に取り組まれる際に、役立つと思われますか？
9 件の回答



①に関して何故、そのように思ったのか記載してください。
9 件の回答

- テキスト知識が役に立ちます
- クライアントに情報提供を行い、実際に申請できる内容があると感じた為。
- 気づかない点などの支援の内容が理解できるから。
- 経営支援について知識が増えるから
- まだ具体的な経営支援に携わっていないので実態がつかめていないので、大変参考になります。
- 事業再生にも様々な施策出てきており、活用しやすくなっているのではないかと感じており大変参考になりました。
- 最新の情報に基づく支援制度の講義であったため有益でした。
- 全体像やどのような資料・HPを調べていけばよいかという点を知ることが出来ました。取組のきかっけや基本としては役立てられるかと思います。具体的な動きに役立てるには、これから実務を積みながらということになりそうです。

①本セミナーの内容は、今後あなたが経営支援に取り組まれる際に、役立つと思われますか？
6 件の回答



①に関して何故、そのように思ったのか記載してください。
6 件の回答

- 実際の支援に役立てる事が出来る。
- 経験豊富な先生の方々から、実践的な講義をしていただいたため
- 体系的に勉強できるから
- 今後アドバイザーとして、進めるべき要旨が理解できたため。
- 金融知識もつけることで幅広く信頼を得ることができると思いました。
- 最新の制度情報を提供している。

また、前回と比べビデオ受講を選択する受講生が多かった点から、一コマの講義時間が長いとの指摘／講義時間の細分化を求める声が前回より多く寄せられた為、アドバイザー養成講座以外のサービス実施を踏まえ、今後の講座運営にて改善する予定です。

事業部・委員会活動

MPP委員会活動報告

MPP委員会

MPP委員会では、MPPの活発な外部活用に向けて準備検討を行っています。
今回は、外部活用につながる活動を積極的に行っている2支部の事例をご紹介します。
参考にしていただき、各支部、センター、県会の活動につなげていただければ幸いです。
合わせて各支部のMPP担当者を明記しましたので活動の促進をお願いします。

1. 各支部のMPP担当者

北海道支部	溝渕 新蔵、高村 一文	南関東支部	鈴木　健
東北支部	佐藤 広文	中部支部	三品 富義
北関東支部	栗山 一宏	近畿支部	検討中
千葉支部	林　久雄	中国支部	福田 幸雄
埼玉支部	花井 秀年	四国支部	川西 健雄
東京支部	日野 隆生	九州支部	西尾 英幸

2. MPP開催予定

東京支部（オンライン）　3月19日（日）13：30～
申込先：hino0718jp@gmail.com　　日野宛

3. MPP外部活用事例

四国支部外部MPP活用事例

四国支部　岩井 美喜夫

四国支部では5年前に遡りますが、比較的大掛かりな外部向けMPPを行ないました。開催の経緯は、外部MPPを開催する前年より、香川県内の経営支援団体の代表などが集まって、毎年春頃に合同で勉強会を兼ねた交流会を行う計画からで、主な経営支援団体として中小企業診断士協会とITC（ITコーディネーター）と税理士会等各種士業の方々その他、金融関係者の方々を一同に集めての開催でした。第1回目は中小企業診断士協会主催でワールドカフェ方式にて行ないましたが、第2回目は日本経営士会主催ということで、開催前年の年末あたりから例会で検討したところ経営士会の特色を生かせるものは、MPPしかないということでメニューは決まりました。しかし、四国支部としてはリーダーが絶対的に不足しており、まずはMPPリーダー養成研修から始めることになりました。MPPリーダー養成研修より一定のリーダーは揃いましたが、リーダー経験が不足しているので例会などでMPPを行うと共に経験を積んでいく方向で取り組みました。

同時に、前年の同会の参加人数が約40名で今回もそれに見合った参加人数にしなければならないというプレッシャーがありました。各方面の行事に参加して、参加の呼びかけをする。経営

士会内でも近畿支部合同MPPに参加して、近畿、中国支部など近隣支部の皆様にも呼びかけをしました。試行錯誤しながら準備した結果、当日には北は山形県から西は山口県までの46名参加ということでミニ全国研のような規模となりました。また四国支部においてはこの規模の行事を全国研以外ではあまり経験が無かったので、本部役員に相談を持ちかけてアドバイスを頂きました。焦っていたのは支部事務局だけで、四国支部の会員はこの規模のイベントの場数を踏んでおり、杞憂に終わりました。

当日は塚元四国支部長(開催当時)の挨拶に始まり、各団体の活動紹介や金融機関の講演と進み、休憩を挟んでいよいよMPPとなり近藤専務の挨拶の後、6チームで、ケーステーマは「中小パンメーカーの組織・人事の課題と業績拡大策の助言指導」で討議を開始しました。チーム編成は6～7名とマニュアルによる理想の人数より若干多めではありましたが、今回初めてという方が半数ほどいましたので結果的には丁度良かったように思います。リーダーとレコーダーは経営士会より選出し、経験の浅いチームのリーダーにはベテランを配し、リーダー自体経験が浅いチームにはベテランのレコーダーを配置するなどバランスを考えた編成にしました。活発な討議が繰り広げられ、冒頭で時間配分の説明もしてありましたが、時間の経過はあっという間でした。

各チームの発表ですが、6チームもあると会場賃貸時間の関係もあり、発表時間の占める割合が大きく、持ち時間3時間から各チームの発表時間を差し引くと、実際の討議時間はややショートにならざるをえませんでした。また6チーム6枚のホワイトボードが会場に揃わず、1枚のホワイトボードを2チームが裏表で使用し、尚且つ模造紙とマジックを用いて行わざるを得なかったところは少々苦労しました。

総括的には、中小企業診断士・ITコーディネーター・経験の浅い経営士からのユニークな意見が飛び交い、普段とは切り口の違う意見も出て大変有意義な会となりました。

MPP終了後に各団体を交えた懇親会を開催しました。経営士以外の団体との意見交換も活発に行なわれ、多団体より経営士に参加したいという方も出ており、金融関係でMPPを取り入れたいという意見もあり、一定の宣伝効果があったように思います。

参加者の内訳は、中小企業診断士協会、ITCかがわ、各種士業、金融機関から19名、経営士会本部から佐藤副会長(開催当時)、近藤専務、北関東から塚本会員、中国支部から金廣支部長(開催当時)以下6名、近畿支部から2名、四国支部から16名でした。

以後、経営支援団体交流会は継続していますが、2020年よりコロナ禍の影響でリアル開催は中止となっておりますが、今年あたりに再びリアルでの開催を検討中です。

以上

新潟県会外部MPP活用事例

北関東支部新潟県会長　磯部 正美

1. はじめに

新潟県会事業として公開MPPは、2010年7月17日に第1回公開MPPを開催してから2023年度には13年目となり、本年1月21日に公開MPP開催で36回に至りました。

新潟県会会員と一般参加者で行う「公開MPP」の取組み事例をご紹介いたします。

2. 取組み経緯

現在、新潟県会には14名が在籍し、MPP、MPPケース研究会を主な県会事業として取組んでいます。第1回公開MPP開催の2010年以前は、他の支部、県会と同様に会員同士のMPPを年、数回実施していました。

このような中で、MPPで県会活動を活性化させたいとの思いで、外部からの参加を募ることにしました。当時設立された新潟TOC勉強会のメンバーと新潟県会会員が知り合いであったことからMPPに新潟TOC勉強会のメンバーに案内し、新潟市のクロスパルにいがたで第1回公開MPPを開催しました。県会員6名、一般参加者は新潟TOC勉強会メンバーその他を含めて9名、計15名の参加のもと2チームで討議しました。以降、毎年2～3回の公開MPPを開催しています。工場見学とMPPをセットにした企画や他の支部会員にも声をかけて現在に至っています。

3. 取組み方法

・一般参加者のグループ名称を共に研鑽、新潟で生まれた会の意として「KENSANの会」を結成し現在まで40名以上の登録、公開MPP開催案内をメンバーに連絡し参加を呼びかけています。また、会員のクライアント、お取引先等の中間管理職、マネジメント層、後継者候補、研修担当者などにお声がけしています。

・公開MPPと併せて情報交換の懇親会を開催して交流を深めています。現在まで「KENSANの会」のメンバーから松田会員、粉川会員、鈴木会員の3名が経営士会正会員として入会しています。会員候補者の確保にもつながるものと実感しています。

・第1回公開MPP開催の翌年2011年6月に新潟県会ケース研究会を立ち上げ、研究会でケースを作成・検討し、トライアルケースとして公開MPPで使用しています。

　県会員と「KENSANの会」メンバーの知り合い企業を訪問・見学し、企業実態の把握と併せてトライアルケース作成の参考にしています。

4. 終わりに

新潟県会は公開MPPを長年継続して開催してきました。上記の取組み事例を参考にしていただけましたら幸いです。

MPPは日本経営士会の先人が創作した研修制度であり、経営士会の貴重な財産であるとも云えます。今後も参加者の相互研鑽を目的にケースメソッド方式の研究プログラムMPPを継承、推進していきたいと考えています。

以上

事業部・委員会活動

【報告】「リアル★クロッシング in 東京」を開催しました

AMCJクロッシング

3月は花見月と呼ばれるほど、梅・桃・桜をはじめ咲き誇る季節です。もちろん、その年、その土地によって開花時期は変わりますが…

去年の12月10日（土）、「リアル★クロッシングin東京」を開催致しました。

今まで、コロナ禍でWEB開催のみでしたが、大阪開催に続き、東京でもリアル（対面）開催ができました。計30名の方に、ご参加をいただいたことをあらためて感謝申し上げます。

これからも、全国会員の皆さまが気軽に「ワイガヤ」ができて、お互いを知っていただける「フラットな場」になるように、運営を行ってまいります。

AMCJクロッシング委員長　戸田 裕之

「リアル★クロッシング in 東京」

12月10日（土）、13：30～17：00、東京開催、JR四ツ谷駅近く

1名（北関東）、1名（千葉）、3名（埼玉）、16名（東京）、6名（南関東）、1名（近畿）、2名（中国）計30名が集まっての開催でした。

大阪開催同様に、「数年ぶりの再会！」、「Webしか会っていない方との初対面！」、開始まえから盛り上がっていました。

30名全員での自己紹介、また6名の方の最近の活動発表などを行いました。コミュニケーションを深めつつ、無事滞りなく17時に終了致しました。

その後の懇親会も20名の参加者で大いに盛り上がりました。

（活動発表者、6名）

①	「社会課題解決型ビジネスモデルの実例」	鈴木和男会員（東京）
②	「持続可能な開発目標達成に向けてあるべき姿の構築」	齋藤広則員（埼玉）
③	「Tweet Mining」	定野淳会員（南関東）
④	「日本経済と中小企業をもっと知ろう！」	堺剛会員（東京）
⑤	「地域課題の解決にむけたSDGs認証制度の検討」	伊藤雅和会員（東京）
⑥	「経営の基本学習ゲーム　みんなの経営物語」	山本英夫会員（南関東）

〈アンケート・ご意見〉　回答者：13名

・大変良かった 10名　　・お礼 3名

・久し振りに、昔懐かしい方々とリアル会話が出来まして、大変楽しい時間を過ごすことが出来、感謝して居ります。

・人と触れ合うことの感慨を思い出しました（笑）

・初めての参加でした。諸先輩の先生方の発表によりその活動内容を知り、またそれに対する意見や質問からも多くの刺激を受けました。
・自己紹介シートを配布頂いたことで、参加された方の情報を整理しやすくなりました。
・会の流れもよく検討されていると思います。参加して良かったです。
・発表者も質問者も、時間を守らない方がいて間延びしましたね。

参加者の皆様

（発表者：山本会員）

（発表者：定野会員）

（発表者：伊藤会員）

今後のスケジュール

AMCJクロッシングは、【偶数月 第2日曜日 10時～】を予定しております

2023年 4月 9日（日）、10：00 ～ 12：00、テーマ未定、ZOOM

2023年 6月11日（日）、10：00 ～ 12：00、テーマ未定、ZOOM

お申し込み先：keieishikai.crossing@gmail.com

メール件名：AMCJクロッシング　申し込み

メール宛先：AMCJクロッシング　戸田宛て

メール本文：①お名前、②会員番号、③支部名、④電話番号

SMC 7c『収益事業化プロジェクト』活動報告

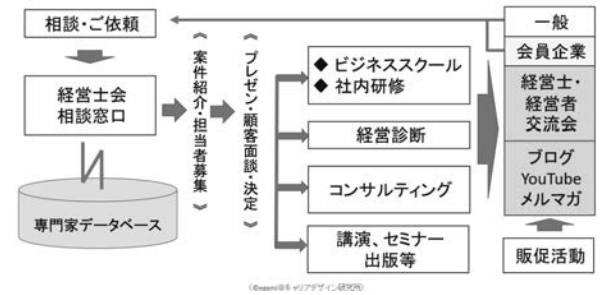
このプロジェクトでは、企業、団体等への実践支援をより積極的に行うことで、日本経営士会の社会的貢献度と会員の満足度の両方を高めるための仕組み作りに取り組んでいます。

具体的には、以下の3つを目的に活動を進めています。

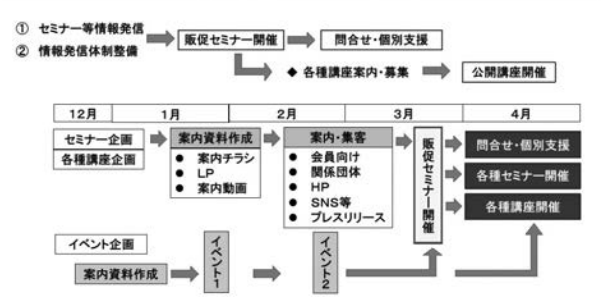
1．経営士会として支援メニューを明確に打ち出し、収益が上がる仕組みをつくる。
2．会員が得意分野を生かして活躍できる場をつくる。
3．会員が計画的に能力アップできる仕組みをつくる。

そして、コンサルティングや研修等の依頼、問い合わせがくる状態をつくることが目標です。

事業運営体制の整備



収益事業化へのロードマップ



【活動報告】

① 定期ミーティング：隔週、2023年2月度より、週1回
② 登録メンバー募集：2月10日現在、20名余が登録
③ 事業説明会開催：2月4日、7日　延べ18名参加
④ 無料フロントセミナー：3月20日以降で開催予定
⑤ セミナー案内チラシ作成
⑥ セミナー案内用HP作成

【今後の活動予定（令和4年度内）】

① SMCセミナー案内チラシの作成
② 案内チラシの配布先、業務提携先開拓
③ セミナー運営体制整備
④ フロントセミナー開催（3月下旬）

【今後の活動予定（令和5年度）】

① PR動画の作成
② SMC紹介HP作成、発信力強化
③ 無料セミナー定期開催
④ 有料イベント企画、開催
⑤ 講師育成講座開催他

以上

（プロジェクトリーダー　江上 範博）

事業部・委員会活動

来期から一般対象に「SDGs経営士」養成講座を開始

SMC（サスティナブルマネジメントセンター）

SMC（サステナブルマネジメントセンター）SDGs経営士養成グループ長
福井　浩

SDGs経営士養成講座は昨年12月までに会員向けに都合2回開催しました。結果はSDGs経営士®が52名誕生しました。2月には一般公募を試行して来季から一般公募を開始します。会員向講座も引き続き開催します。

SDGs経営士とは

◎SDGs経営士を当会で構築した狙い

SDGs経営士を当会で構築した狙いは「SDGs経営」を全国に広めるためにSDGs経営士の資格を日本経営士会の資格の一つとして創設し、「SDGs経営」拡大していくことです。

◎「SDGs経営」とは

SDGsの理念を活用して新事業、新製品、町おこし等を実践していくことです。この活動によって「サステナブルな企業、自治体に、NPO」などに変えていきます。

SDGs経営を実践している企業、自治体、NPOなどは、ステークホルダーから信頼が得られ結果業績向上が期待できます。

◎この講座を実施する対象は

企業、自治体、NPOなどのSDGsに関心のある方。

◎SDGs経営士養成講座の内容

このテキストの内容は①環境倫理を含めた環境全般、②企業・自治体・NPO・NGOなどに取り巻くステークホルダーの動向、（TCFD、SBT、RE100、ESG等）、③環境経営、SDGs理念構築、経営システム、マーケティング、環境会計、環境教育、④環境問題とビジネス、⑤SDGsとは、SDGsを活用した事例、⑥事例に基づくワークショップで構成をされています。

出典：内閣府　SDGｓで地方創生の図

SDGs経営士と環境経営士の違い

「環境経営士」は主に企業に対して環境経営面から支援する資格

「SDGs経営士」は環境経営士の範囲に加えて17ゴールを目標にして自治体、NPO等に対して支援する資格。共に商標登録済です。SDGs経営士の拡大のために皆様のご協力をお願いいたします。

北海道支部活動報告

北海道支部

北海道支部新年会報告

コロナ禍で過去3か年支部新年会は開催できませんでしたが、久しぶりに新年会を開催しました。参加者は講師を含めて8名でした。

今回は、北海道支部顧問の玉井健一教授(小樽商科大学　大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻教授、産学官連携推進部門長)を迎えて「マネージャーの仕事の再検討」と題して講演を頂きました。内容は組織とは何か、組織のマネジメント活動でした。ポイントは以下のとおりでした。

講演内容

項　　目	内　　容
1. 組織とは何か	
1.1 協業システムとしての組織	・協働することで、個人にはできないことを達成することができる ・組織は共通目的、貢献意欲、コミュニケーションの条件で成立
1.2 組織と人間との関係	・人間は自由意志で断続的に組織と関わっている ・人間の意志決定には個人的意思決定と組織的意思決定がある
2. 組織のマネジメント活動	
2.1 管理者の仕事の理想と現実	・理想は計画を策定するプランナーでありたいと思うが、短期的で計画よりも実践を重視 ・仕事の情報は、非公式な口頭コミュニケーションを重視 ・組織は上司と部下だけでなく、同僚や組織外者との関わりも多い
2.2 管理者の位置づけ	・組織の長(公式に預かる人)、公式権限を行使できるがヒトに依存するポジション、組織目標を達成する役割と行動が必要
2.3 3つのマネジメント	・管理者には3つのマネジメントが必要、「情報、ヒト、行為」 ・情報：コミュニケーションとコントロール、ヒト：部下が主体的に仕事に取り組めるように支援、行為：組織で行われる現場の活動に直接関わること ・3つのマネジメントを通して組織の不確実性削減・依存性対処が可能

新年会には12月に入会した平村徹郎会員も参加し、講演の後にいろいろな質問や意見交換の時が持たれた。会員が自社や自分が関わった(関わっている)組織を思い浮かべ意見交換がなされた。

報告者は、今回の講演で学んで点を支部活動に照らすとき、会員の情報収集、組織の活動の連携、現場での推進の3つの事項について、会員の仕事や実務的を含めて支部経営士活動を考え推進する必要性を感じたところです。

講演に引き続いて小笠原幹事長の司会で交流会が持たれました。会食をしながら会員の事業や近況など一人10分の持ち時間の中で進められ、会員の話の後に質問等が出された。また、講師の玉井健一教授からは、国立3大学統合の北海道国立大学機構及びCGS産学官連携推進部門の内容についての紹介もあった。

3年ぶりの新年会は、共に経営士会の活動に思いを向けて良い意見交換、会員相互の交流の時となった。

(報告：須川 清一)

支部活動報告

東北支部MPP開催

東北支部

毎年恒例となっている「一般社団法人日本経営士会　東北支部　MPP」を
山形県上山温泉「かみのやま温泉　葉山舘」にて
令和5年1月28日（土）～1月29日（日）に開催しました。

初参加のフレッシュ会員から超大ベテランまで、他支部から参加した方々も含め、計18名が3グループに分かれて侃々諤々意見を交わしました。

来年度は福島県で開催予定です。「温泉とお酒を組み合わせたMPP」も中々良いですよ！

他支部からの参加も大歓迎ですので、遠慮なくご活用下さい。

（毎年1月最終土日開催中！）

当日スケジュール

時　　間	内　　容	
12：00 ～	受付　葉山館2階会場入り口にて会費を集金	
13：30 ～ 13：45（15分）	開会　　あいさつ	MPP時間配分の説明、部屋割の説明 懇親会及び明日の朝食の説明
13：45 ～ 14：15（30分）	MPP開始 第1段階　　導入	リーダー挨拶、各メンバー自己紹介、時間配分、ルール説明、レコーダー選出ケースの理解統一　音読
14：15 ～ 15：45（90分）	第2段階　　討議	活発な意見をどんどん発表
15：45 ～ 16：15（30分）	第3段階　　まとめ	解決策等の確認
16：15 ～ 16：35（20分）	第4段階　　整理	報告書作成
16：35 ～ 17：45（70分）	第5段階　　発表	各チーム成果の発表 平山前顧問による総評
19：30 ～	懇親会	

（全員での記念写真）

（様々な視点による質疑応答）

（葉山館）

（楽しみの懇親会）

（差入れのワイン）

支部活動報告

北関東支部新潟県会　第35、36、37回公開MPP

北関東支部　新潟県会

北関東支部新潟県会長　磯部 正美

新潟県会　第35回　公開MPP

日　時	2022年12月3日（土）　13：30 ～ 16：30（3時間）	
会　場	新潟市　クロスパルにいがた	
出席者	新潟県会	磯部県会長、渡辺副会長、木村副会長、西山副会長、松田会員、桒山支部長
	東京支部	日野会員
	一般参加者	瀬賀孝子氏、加藤誠氏、稲野純也氏、長沼和騎氏

今年締めくくりの第35回公開MPPを会員7名、一般4名の計11名参加で新潟市の「クロスパルにいがた」において開催しました。ケースは新潟県会MPPケース研究会のトライアルケース「A社の内・外部相談・通報窓口の新設について」を使用し、Ⅰチームはリーダー渡辺会員、レコーダー木村会員、メンバー松田会員、瀬賀氏、加藤氏の5名。Ⅱチームはリーダー磯部会員、レコーダー桒山会員、メンバー西山会員、日野会員、稲野氏、長沼氏の6名。2チームに分かれて活発な討議を行いました。

今回のケース概要は「産業廃棄物処理業A社は現在の会長がリヤカー一つの生業でスタート、創業30年経過するころにISO14001認証を取得し自社工場を建てるまでに至り、近年はエコやSDGsといった時代背景もあり業績は右肩上がりである。しかし社風、内部体制とも個人商店時代の組織を色濃く残し数年前にようやく最低限の組織体制の整備が出来上がったが、ここにきて重大なセクハラ事案やパワハラ事案が発生した。総務部長は一連の不祥事の教訓から知人の経営士に今後の対応について相談をした」です。今回の設問は1．内部及び外部への相談・通報等の窓口を設置・構築（再構築）はどのようにしたらよいかの助言　　2．相談・通報窓口の設置に限らず、A社に経営上の提言、助言　　について経営士チームにアドバイスを求めています。

ⅠチームはA社の現状分析から入り、マネジメントシステムとして捉えて討議を進め、ⅡチームはA社の組織分析から組織体制の見直しと企業風土改革へ討議を進めました。

終了後はⅠチーム木村会員とⅡチーム稲野氏で発表と質疑応答を行い、新潟県会MPPケース研究会の西山会員から今回のケース解説が行われました。MPP終了後は会場を移し、会員、一般参加者との情報交換と懇親望年会を行い有意義な一日となりました。

以上

（Ⅰチーム 木村会員の発表）

（Ⅱチーム 稲野氏の発表）

新潟県会　第36回　公開MPP

日　時　　2023年1月21日（土）　13：30 ～ 16：30（3時間）

会　場　　新潟市　クロスパルにいがた　405

出席者　　新潟県会　　磯部県会長、渡辺副会長、木村副会長、栗山支部長、粉川会員、椎葉会員、鈴木会員

　　一般参加者　永田功二氏、橋本琢磨氏、松井美浩氏

新年会　　新潟駅前　コリアンダイニング「けなり」　8名参加

新年の顔合わせも兼ねて第36回公開MPPを新潟県会7名、一般3名の計10名の参加で新潟市の「クロスパルにいがた」において開催しました。

今回のケースは、新潟県会MPPケース研究会で作成したトライアルケース「M社の地域貢献と国際化への対応」で、加工機メーカーのM社が、地元大学からインターンシップの受け入れを依頼される内容で、学生は留学生で国、母国語、宗教の異なる3名です。

設問は、受入れの窓口である総務部長としてどのように対応、推進するのか？でした。

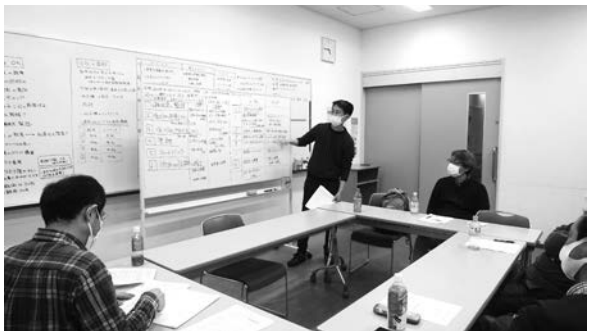
磯部県会長の挨拶後に、2チームに分かれて約3時間の活発な討議を行いました。

Aチームはリーダー鈴木会員、レコーダー栗山会員、メンバー木村会員、永田氏、橋本氏の5名。Bチームはリーダー磯部会員、レコーダー松井氏、メンバー渡辺会員、椎葉会員、粉川会員の5名。発表者はAチーム永田氏とBチーム松井氏で報告書作成後に発表と質疑を行いました。Aチーム、Bチームとも方向性は同じですが、受入れ準備に対する内容や推進方法もそれぞれが異なるアプローチから行い様々な考え方があることを再認識できました。

MPP終了後に新潟駅前に移動し、新年会を行い親睦を図り、次回のMPPや県会活動などについても意見交換がおこなわれ、楽しいひと時を過ごしました。

以上

（Aチーム 永田氏の発表）



（Bチーム 松井氏の発表）

北関東支部新潟県会　粉川 雅人

新潟県会　第37回　公開MPP

日　時　2023年2月18日（土）　13：30 ～ 16：30（3時間）
会　場　長岡市　まちなかキャンパス長岡
出席者　新潟県会　磯部県会長、渡辺副会長、木村副会長、西山副会長、鈴木会員、粉川会員、栗山支部長
　　東京支部　日野会員
　　一般参加者　加藤誠氏、江口郁子氏、中嶋一登氏、幸田高明氏、萩原玄氏

第37回公開MPPを会員参加者8名、一般参加者5名で長岡市まちなかキャンパス長岡で開催しました。ケースは新潟県会MPPケース研究会のトライアルケース「甲社長の懸念」を使用し、Aチームは7名、リーダー粉川会員、レコーダー鈴木会員、Bチームは6名、リーダー西山会員、レコーダー加藤氏の2チームで討議を行いました。

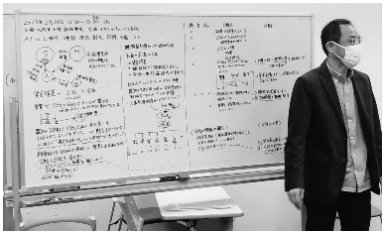
ケース概要は「元々がライバル関係にあった建設機械専門メーカーG社と大手重機械メーカーS社建設機械部門は大手重機械メーカーH社によるM&AにてA社として設立された。S社出身者は設立時出向扱いであることをはじめ各社の処遇や働き方・業務ルールにも違いがあることや新しいA社給与体系などから設立後3年が過ぎて発生している各部の問題が総務部長へあげられてきている状況」です。今回のケースの設問は「各部の問題と改善策のアドバイスと今後の課題と対策」について経営士チームに助言を求めています。

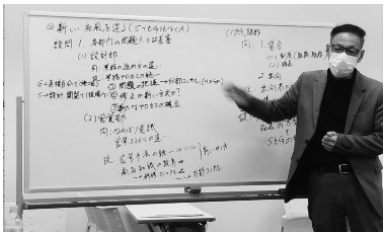
Aチームはの両社の組織風土や働きかたの違いを整理し、現在おきている問題について分析し、短期的には各部門の業務分掌を改めて明確にし働きかたを揃える事や改めて新会社が目指す方向性やビジョンなどを明確にしていくことが今後の社員活性につながることを討議しました。

Bチームも両社の組織風土や働きかたの違いを整理したのち問題についての分析、解決策とコンサルタントの活用なども討議しました。両チームとも結論は見立てや現状分析は近いものでありましたが、考察へのアプローチや解析手法などに違いがみられ改めて同じケースでも回答が違ってくるというMPPの醍醐味を再確認できました。終了後は2チームの発表と質疑応答を行い、新潟県会MPPケース研究会の磯部会員からA社の実際の設立時時の背景と現在の状況についてのケース解説と今回のケース検討から得られた新しい気づきについてコメントされました。

MPP終了後は会場し、会員、一般参加者との情報交換と懇親を深めた有意義な一日となりました。

以上


（Aチーム 鈴木会員発表風景）


（Bチーム 加藤氏発表風景）

（両チーム発表を聞く参加者）

支部活動報告

2022年最後の県会例会を開催　茨城県会

北関東支部　茨城県会

日　時：2022/12/17（土）　13：30～16：00
参加者：塚本裕宥会員、鈴木勇会員、竹俣大介会員、大内雅功会員、幡谷貞賢会員
ZOOM参加：柴沼功会員

1．連絡事項

本部関係

日程2023/10/14～15中国支部にて全国研究会のこと、論文の応募具合まだまだ少ないため引き続き研究課題をお持ちの会員は応募をお願いします。

支部関係

11/19・20　支部MPP新潟県会開催茨城県会から2名参加
東日本ブロック竹俣理事含め北海道支部東北支部・北関東支部参加し定期MTG開催

県会関係

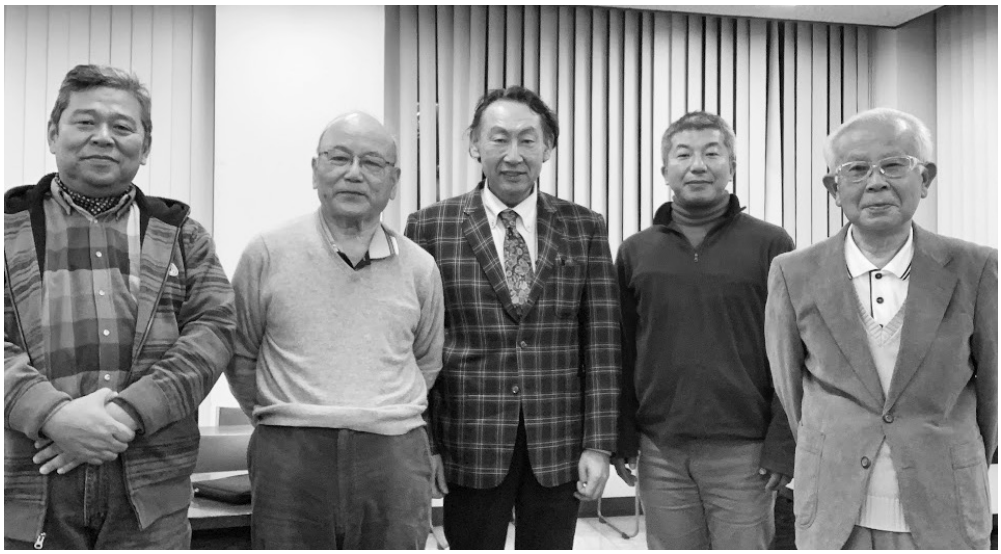
12月、3名の方が推薦入会になりました。
※本推薦入会に際し、塚本裕宥会員、竹俣理事の大変な尽力がございました。
改めて深く感謝申し上げます。

今後の例会日程

1/21（土）　13：30～16：00　通常例会
2/25（土）　13：30～16：30　※MPP開催
3/25（土）　13：30～16：00　通常例会

2．協議事項

10月に経営品質勉強会の計画がありましたが諸般の事情で中止となりました。
改めて新年度事業の中で勉強会を組み入れることについて提案がありました。



支部活動報告

北関東支部栃木県会　MPP　開催結果

北関東支部　栃木県会

栃木県会　MPP

日　時　　2022年12月10日（土）　13：30 ～ 16：30（3時間）
会　場　　宇都宮市　とちぎボランティアNPOセンターぽ・ぽ・ら
出席者　　栃木県会　森川県会長　臼井副会長　相場会員
　　新潟県会　桒山北関東支部長　東京支部　日野会員　一般参加　　萩原さん

MPPを宇都宮市のとちぎボランティアNPOセンターぽ・ぽ・らで開催しました。

参加者6名1チームでケースは「ハマチ養殖業者の人事戦略と事業戦略」を使用し討議を行いました。

ケース概要は「養殖業を営んでいるA水産が人手不足の課題をかかえている。外国人技能実習制度を活用して外国人を採用してきたが、母国経済の発展で過酷な労働環境に対する労働条件が相対的に見合わなくなりA水産で働く必要性が薄れた。その結果、外国人技能実習生はいなくなり、人手不足に陥り注文を断らなければならないほど事態は悪化した。現状打破のため従業員を雇用するため求人を出しているが結果が出ていない。」です。

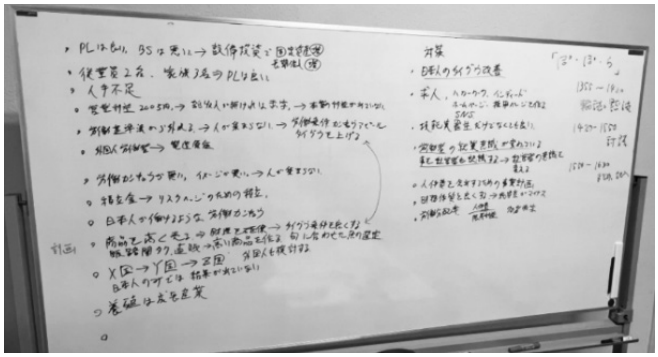
対する設問は「①A水産の人事戦略、対策についての提案。②今後（中期計画）についての提案」です。

開始からケースについて活発な討議が行われ、意見交換が行われました。B/S、P/Lから財務状況を把握し、ケースから読み取れない箇所は推論しながら討議し、現状把握に努めました。同業界や類似業界を参考にA水産がおかれている現状を把握し、労働条件・労働環境・労働法等からみた多面的な討議を行い、また媒体等を活用した従業員採用方法の考察を行いました。

ケースで与えられた情報は限られているため、その限られた情報から企業の現状を把握、推論し、仮説を立て討議し、会員同士の親交を深めながら意見交換を図っていくことができました。

今回のMPPは県外から参加して頂いた会員がいたため活発な討議ができたと思います。ご参加頂いた会員の皆様には感謝申し上げます。栃木県会も更なるスキル向上を目指して活動を行っていきたいと思います。

終了後、宇都宮名物の「餃子」「カクテル」で懇親し、更なる会員同士の相互理解を深めました。



（活発な意見交換）

千葉支部活動報告

千葉支部

両日とも新型コロナウイルスの感染拡大傾向を受けて、ZOOMとリアルのハイブリッド開催とした。

開催日　：　2022年12月24日（土）
会　場　：　ZOOM会議＋船橋市中央公民館会議室（ハイブリット方式）
議　題　**第1部**

幹事会・運営委員会

① 定例理事会・支部長会報告　議案1号から10号
② 12月23日中日本ブロック会議の報告
③ 支部運営の現状把握アンケートについて
④ 次年度事業計画（取り組みたい課題）について
⑤ 千葉支部活動報告

第2部

3Cの会は休止

開催日　：　2023年1月28日（土）
会　場　：　ZOOM会議＋船橋市中央公民館会議室（ハイブリット方式）
議　題　**第1部**

幹事会・運営委員会

① 令和5年1月20日定例理事会についての報告
② 令和5年1月20日の理事会報告
③ 千葉東法人会講演会・賀詞交歓会報告
④ 千葉県経営者協会講演会の報告
⑤ いすみ市研修営業について
⑥ 勝浦市管理職研修について
⑦ 来年度支部活動計画について
⑧ 1月16日中日本ブロック会議報告

第2部

3Cの会は休止

以上

支部活動報告

東京支部主催「2023年新春セミナー By Zoomオンライン」報告

東京支部

東京支部では、「新春セミナー」を2023年1月29日（日） 15：00 ～ 17：30、四ツ谷本部にてZoomオンラインで開催しました。

今回の新春セミナーは「2023年を考える」をテーマに3部構成とし、第1部：東京支部鈴木和男会員による「日本と世界の環境・社会・経済動向から2023年の『サステナビリティのメガトレンド』を考える」、第2部：東京支部高辻成彦会員による「設備投資動向を中心に学ぶ日本経済の現状」、第3部：鈴木和男会員と高辻成彦会員をパネラーとして、3つの質問「1）ウクライナ問題の与える日本への影響は、2）コロナパンデミックの影響は、3）これからの日本経営士会について」にコメントをいただきました。

講師の鈴木和男会員は当会会長としてのご多忙の合間を縫って、最新の世の中の動きを織り交ぜたご講演をいただき、またテレビ・マスコミ等で活躍中の「経済アナリスト」としてご存知の方も多いと思いますが、2021年12月東京支部入会の高辻成彦会員には、日本の設備投資の動向を分析した最新の経済動向についてご講演をいただきました。

参加者は49名、アンケートには延べ66件のご回答をいただき、87％が「大変良かった、良かった」との回答をいただきました。

主なコメントでは、「サステナビリティマネジメントが非常に勉強になったため、続編を開催して欲しいです。」「経済を取り巻く現状の動きが理解出来ました。」「設備投資からの日本経済影響、勉強になりました。」「今後の日本経済のあり方について、講師のお二方がそれぞれ異なる視点から解説いただき、とても勉強になりました。」「たいへん良かったです。今後も定期的な開催を希望します。今回の年初の経済見通しの講演、毎年の中小企業白書の講演は是非続けてください。」「日本が現在直面する様々な問題点を確認できましたが、これらの問題点の解決策を協議できたらと考えております。」など、建設的なコメントを多く頂戴しました。今後の励みとなり感謝申し上げます。

今回の参加者は、中日本ブロック内の東京支部、埼玉支部、千葉支部、南関東支部会員の方々のみならず、東北支部、北関東支部、中部支部、中国支部、四国支部、九州支部からもご参加いただきました。

東京支部では、今後もこのようなセミナーを開催して参ります。Zoomオンラインでの開催の場合、全国から多くの方々にご参加いただければと思います。ご案内の仕方も一層工夫いたします。

会員の皆さまのご参加をお待ちしています。（「新春セミナー」事務局）

（参加者の皆さま）

（鈴木和男講師）

（高辻成彦講師）

支部活動報告

神奈川ビジネスオーディション2023への協賛活動

南関東支部

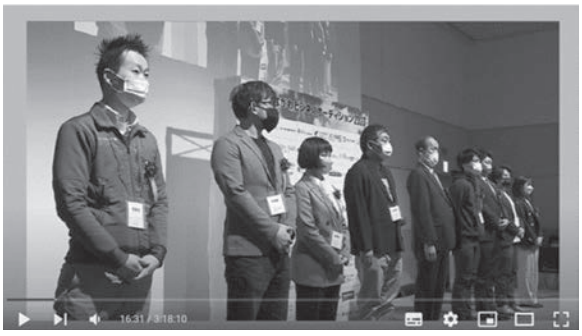
報告：神奈川経営支援センター長　小池 基美男

神奈川ビジネスオーディションとは、神奈川県、公益財団法人神奈川産業振興センターが中心となり、県内の支援機関、金融機関の支援のもと、創業・新分野進出などにチャレンジする事業者を応援するもので、今回で27回目を迎えます。神奈川県の中小企業支援機関や金融機関が後援・協賛するこのイベントへの参加は、当会(神奈川経営支援センター)の県内知名度の向上には欠かせないものと考え、今回は数か年ぶりの協賛参加を図りました。

神奈川ビジネスオーディションの特徴は約半年間にわたる審査期間があり、かつ最終審査会はテクニカルショウヨコハマ(中小企業が出展主体の展示会としては、国内でも大規模なクラスの展示会)と同日の開催のため、協賛事業者としてのPR機会を得る期待ができます。また、神奈川県内事業者に限らず、県内市場も捉える他県事業者もエントリーができるためオーディション自体の情報発信は、県内に留まらない点も魅力的です。

日程	事業スケジュール
2022年 6月上旬～	事前告知
8月1日（月）～31日（水）	ビジネスプラン応募期間
9月下旬	1次審査結果発表
10月中旬	2次審査用プレゼンテーション資料提出
10月25日（火）、26日（水）	2次審査（プレゼン審査・オンライン）
12月上旬	2次審査結果発表【ファイナリスト決定】
2023年 1月20日（金）	最終審査用プレゼンテーション資料提出
2月1日（水）	かながわビジネスオーディション最終審査会 （ビジネスプランの発表と表彰）の開催
2月1日（水）～3日（金）	テクニカルショウヨコハマ2023　KIPブース出展

また、神奈川県及び各自治体においてSDGs推進に積極的な地域でもあり、応募する事業者テーマにおいても様々な社会課題解決を標榜する新たなビジネスチャレンジ事例に触れることができることから、当会の支援活動機会を考察し、具体的な支援の在り方、提供サービスを検討するフィールドとしても格好の機会としても参加意義の高いイベントと判断しました。



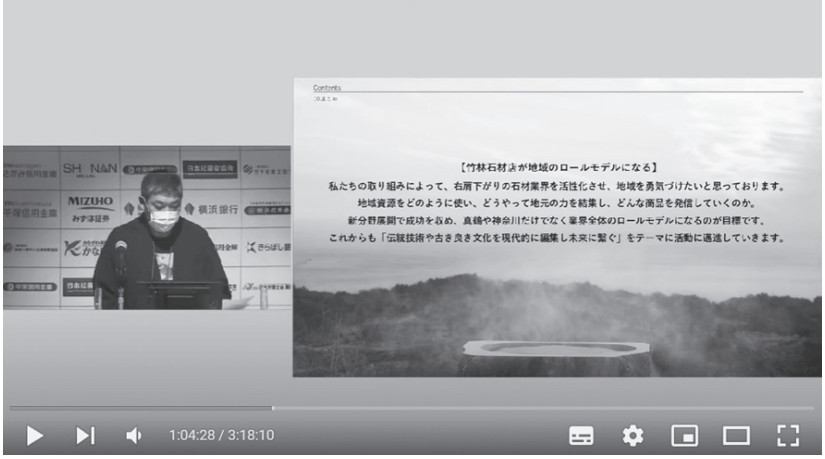
【最終審査会ノミネートされた事業者】

【最終選考会の会場の様子】

今回協賛団体として団体賞を贈呈するにあたり、事業のビジネスモデルとしての新規性･優秀性、経済成長性など従来型の評価基準を表彰対象として他団体が示す中、当会はビジネスの持つ社会

影響(社会的インパクト)の高いビジネスを評価することを標榜しました。「社会的インパクト」のワードを表彰対象に掲げたのは当会が初であり、既存の支援機関との違いを強く示すことができたと思います。(もちろん今後中身のサービスも確立して示していかなければなりませんが)

今回最終選考に残った事業者の中から、神奈川県の真鶴地区で採掘される本小松石(高級墓石材)の新たな用途開発や市場開拓に臨み、同地区の同業者をリードするような新分野展開にチャレンジした有限会社竹林石材店に、当会の団体賞を贈呈しました。最終審査に残った他の事業者も、大変大きな社会的インパクトの創出可能性を想像できましたが、同社を選んだ理由は、地場産業同業者にも参考となる活動を地道に重ね、同業者や地域自治体との連携、協働にも波及するような地域を活性化する共創事業としての発展が十分期待できる点を評価しました。(他のエントリーのほとんどが、場慣れしたプレゼンをするベンチャー代表者に比べ、小さな会社の代表者の朴訥とした説明ぶりに返って真摯さを感じ、また地元神奈川県の事業者としてのチャレンジに当センターとして応援していきたいとの贔屓目も加味しましたが、地域の支援機関の姿勢としては正しい加点要素ではなかったかと考えます。)



【竹林石材店様の発表の様子】

【団体賞贈呈の様子　副賞の楯】

SDGsやサステナブル経営の社会普及において(ことこれに臨む事業者にとって)ビジネスの創出・発展も望める機会を得ることはもちろんのこと、その成果・影響を社会的インパクトとして示すことで、社会からより高い価値づけを得られることが重要です。神奈川経営支援センターにおいては、今回の協賛機会を活かし、表彰事業者等との交流を持ちながら社会的インパクトマネジメントの視点から事業支援機会の開拓を目指してまいります。活動にご関心のある会員は、神奈川経営支援センター長小池まで。ご連絡お待ちしております(Mail:　keieishikanagawa@gmail.com)

順番	ビジネスプラン名	企業名
①	どこでも農業が世界を変える	スパイスキューブ株式会社
②	国家戦略特区とコンポストによる人と地球に優しい生活の創造	株式会社いぶき
~~③~~	~~AI謎解きゲームで地域活性化~~（※参加辞退）	~~株式会社Creator's NEXT~~
④	洗浄のゼロエミッション化を実現する革新的小型洗浄装置「S-PCS」	株式会社ケンテック
⑤	墓石や土木資材から空間デザインの商材に新分野展開し、本小松石の魅力を再発掘する。	有限会社竹林石材店
⑥	インフラ点検ソフト"違いがわかるAI"「Drone View」	株式会社mmガード
⑦	建設業のDXを推進する、施工現場の労務安全管理システム「SHO-CASE」	株式会社SHO-CASE
⑧	大改修時代は染めQが担う！新技術「塗着補強」でモノの再生・延命化を！	株式会社染めQテクノロジィ
⑨	データ利活用で職員の意思決定を支援する児童虐待対応支援サービス	株式会社AiCAN
⑩	社会問題である孤独を「聴く」で解消するLivelyTalk	株式会社Lively

(参考)最終審査会エントリー全テーマです。

https://www.youtube.com/watch?v=xWPcFKrEFtM
県知事賞(大賞)受賞者の受賞後のコメントに、これからの事業支援を考える上のヒントがちりばめられているように感じました。(動画の最後の3分3:12:00あたりから)

支部活動報告

中部支部最近の活動報告

中部支部

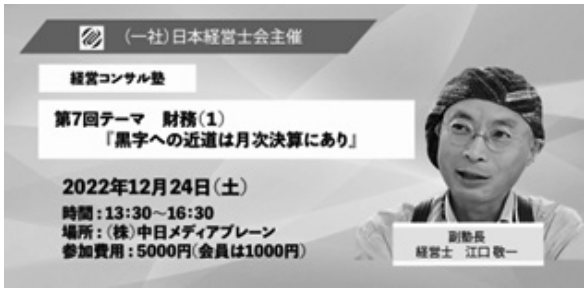
◆経営士補養成講座終了

中部支部においては第5回目となる経営士補養成講座を、愛知学院大学名城公園キャンパスにおいて、2022年12月3日(土)～17日(土)までの土日計5日間、延べ30時間にわたり実施いたしました。

今回の受講生は、コンサルタント会社出身者、社会保険労務士、中小企業の役員の3名でした。講座内容は、経営コンサルタントに必須の経営、人事、生産、財務、営業、情報など6分野にもおよびますが、ワークを交えながらの実践的な講義内容を通して、コンサルタントとしての立場や視点を学び、十分に理解されていたようです。今回受講された方々は、大変優秀な方ばかりで、熱心にメモをとりながら積極的に質問をし、活発な意見交換もされて、大変有意義な講座となりました。

なお、受講された3名は全員、日本経営士会の「経営士補」登録を申し込んでいただきました。更に、その内の2名は2月11日～18日の各土日の日程で開催される、中部支部主催の「環境経営士養成講座」の受講も希望していただき、環境問題に関してもその知見を深めようとされる意欲を見せています。受講生が見せる積極的な姿勢に、中部支部の他の会員も大いに刺激を受けています。

◆経営コンサル塾(第7回)



テーマ:「黒字への近道は月次決算にあり」
講　師:江口敬一
開催日時:2022年12月24日(土)
13:30～16:30
開催場所:(株)中日メディアブレーン研修室
参加者:7名

経営管理とは、経営計画の進捗をモニタリングし、経営目標を達成するためにヒト、カネ、モノといった経営資源の分配や部門間の連携を調整することです。これは、経営者にとって重要な仕事になります。当然、経営コンサルタントにとっても、経営管理を支援する能力は必須のスキルとなります。

経営管理の基本は、毎月の月次決算です。年間の財務目標を月別に設定し、目標差異に対する

原因の分析と対策を毎月施し、目標達成を目指します。財務数値は計画の目標であり、経営行為の結果でもあります。目標や結果である財務の視点に対し、プロセスである人材の視点、業務の視点、顧客の視点ごとにそれぞれの目標となる指標を設定し、月次でモニタリングする手法について事例を交えて講義しました。

（記：江口敬一）

◆令和5年賀詞交歓会開催

開催日時：2023年1月14日（土）15：00～17：30

開催場所：（株）中日メディアブレーン8F

参加者：15名　　総合司会：江口敬一

第一部【新年挨拶】　支部長　三品富義

支部の活動内容として、メッセナゴヤ、経営士補養成講座、環境経営士養成講座、経営コンサル塾、支部研究会、エコステージそれぞれの活動実績について報告がありました。今後の活動予定として、本年10月に広島にて2年ぶりに開催される全国研につき、中国支部のPR動画を用いての紹介があり、中部支部会員皆様の積極的な参加を期待したいとのご挨拶をいただきました。

【会員の新年度への抱負】

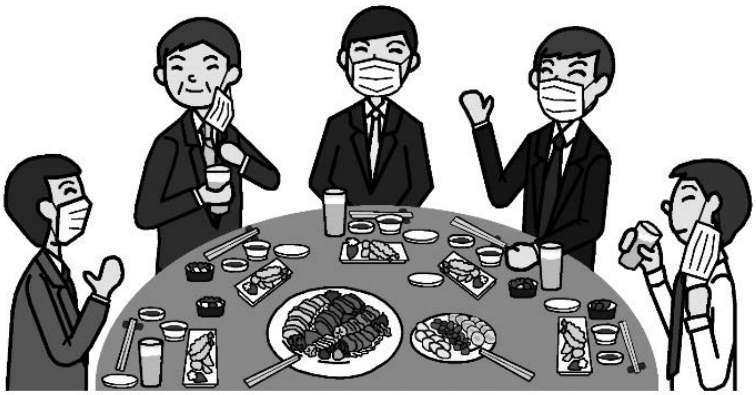
会員各自が、自己紹介と今年一年の抱負を発表し、互いの展望を語り合いました。

第二部【新春講演会】「経営法務　基本の“キ”」さくら総合法律事務所代表　竹内裕詞様

①悪徳商法、②事業主体に関するトラブル、③家族と事業、④会社運営、⑤人を使うルール、⑥取引先とのトラブル、の6つの事例類型に基づき、講師が実際に関わった経営に関する法律上のトラブルについての対処法を紹介していただきました。近年、クライアントに対するコンサルティングの場で、法律上の諸問題に出くわすことが少なくありません。法律の専門家である竹内講師が関わった事案で、それをもとに今回ご提示いただいた事例は、経営士としてクライアントへアドバイスをする際には、非常に有用な情報ばかりでした。講演終了後も、講師に質問や相談をする会員が続出したところから、今回の講演は、経営士会員の法務に関する知識習得のいい機会になったようです。

第三部【懇親会】18：00～

会場を「attivo」に移し、竹内裕詞講師を交えての懇親会を開催しました。コロナ感染症対策に留意しながらも、久しぶりにリアル対面でグラスを重ねることができたことで、懇親の場は大いに盛り上がり、会員相互の交流を深めることができました。



支部活動報告

第55回　経営士全国研究会議　心こめて順調に準備中です！

中国支部

2023年1月21日、広島にて西日本ブロック支部長会議が開催されました。（中部支部：三品富義様、近畿支部：國廣好行様、四国支部：川西健雄様、九州支部：西尾英幸様）

各支部の報告に合わせて、全国研究会会議の打合せと新年会を兼ねた当日、中国支部会員も集まり、29名が広島に集合しました。中国支部では、オンラインでの活発な勉強会や会議が続き、毎月何かと顔を合わせることが多いのですが、考えてみるとリアルでお会いするのは始めてという方も多く、「やぁやぁ、どうもどうも」と和やかに名刺交換。西日本ブロックのタイムリーな動向を伺い、大いに触発されました。

その後、視察もかねて全国研の会場となる平和の聖地、広島平和記念公園のなかにある「広島国際会議場」に移動しました。まさに広島を象徴する会場です。

当日はこの会場を貸し切っての開催。今ほどこの会場が選ばれたことに大きな意味を感じる時代はありません。会場から少し出て頂くと、もうそこは、広島平和記念公園です。

（写真提供：広島県）

下見が終わると、いよいよ新年会。広島名物の「あなご料理のコース」に舌鼓。会員同士、美味しい料理を囲みながら、リアルで会える楽しさを満喫したのでした。

今年5月に開催される「G7広島サミット」で注目が集まるこの広島で、皆さまが快適で有意義な2日間を過ごせるよう、支部会員一同心込めて準備を進めています。会場でお待ちしております！

（文責　女性活躍推進担当・幹事　石井 サト子）

四国支部活動報告

四国支部

支部活動として、四国支部例会を令和5年1月24日に開催した。

今回は、例会での講演は日本経営士会副会長　岩井　美喜夫氏による「終業規則について」を解説する講義であった。

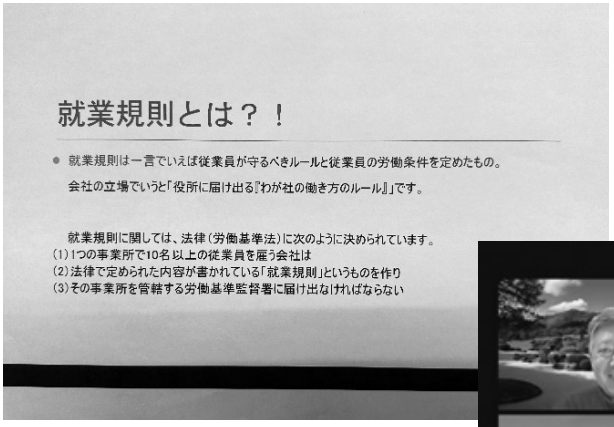
レジメとしては　・就業規則とは　・就業規則の適正な扱いとは

・就業規則が必要な場面　・就業規則は会社の働き方に合ったものを

・就業規則と企業との位置づけ　・作成のポイント

会社の働き方に合ったものを作成することによって会社への負担が軽減できる。たとえば週40時間制を順守するための方法など、業務上のネガティブな条項の定め方などの解説もあった。以前は労働基準監督署の調査時のみが大半の該当であったが、インターネットの普及により経営者以上に労働者のほうが細やかな情報をキャッチしているケースも多くなってきている。結論は職場環境の整備の必要性があり、専門家への相談によって企業も労働者も守りより良い労働環境を遂行することがよい労使関係が築くことできると理解した。

1月の例会も他支部から参加をいただき、講義内容の共有やコミュニケーションが図れたと実感している。



「第69回定時社員総会」のご案内

第69回定時社員総会の日程が下記のとおり決定しました。
多くの正会員の皆様にご出席いただきますようお願い申しあげます。
詳細は後日、お知らせいたします。

記

日時：2023年6月30日（金）
15：30 ～ 17：00（社員総会）
17：30 ～ 19：00（懇親会・予定）

会場：スクワール麹町3階　華の間
〒102-0083　東京都千代田区麹町6-6
TEL：03-3234-8739　FAX：03-3234-8738

＊ JR中央 総武線　四谷駅　麹町口から徒歩30秒
（横断歩道を渡り正面の建物）
＊ 地下鉄丸の内線　四谷駅　四谷口から徒歩3分
＊ 地下鉄南北線　四谷駅　3番出口から徒歩2分

以　上

訃　報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
会務に多大のご尽力をされました。
＊岡本 龍幸会員（NO.4260　近畿支部）
令和3年12月26日（享年61歳）

Management Consultant

経営に知恵と革新 Intelligence and Innovation in Management